

平成25～28年度開催の委員会での行政改革大綱実施計画の評価に対する御意見のうち
次期大綱を策定する上での課題と捉えている事項と対応についての考え方

項目	委員会からの意見（課題）	次期行政改革大綱における考え方
大綱関係		
1 大綱タイトルについて		
	<ul style="list-style-type: none"> 行政改革大綱というタイトルだけだと堅いし、何を訴えたいかということが見えてこない。例えば、サブタイトルで、今回はこれだというようなメッセージを付け加えると、見てもらえるようになるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 現大綱では副題として「改革意識の浸透と実践」を位置づけ、各職員の意識への浸透を図る取組を全庁的に実施している。 次期大綱においても、副題で最重要テーマをわかりやすくする等の工夫を行いたい。
2 推進体制や推進に向けた意識について		
	<ul style="list-style-type: none"> 行政改革は、ボトムアップだけでは前には進まない側面もある。そのため、進捗状況が遅い取組は、庁内の知事や総務部長をトップとする実働部隊において、トップダウンで議論していく。そういった意思決定の方法を少し改善することによって、スピード感がアップするのではないか。 行政改革は、各部局の創意工夫を引き出しつつ県全体の行革を推進する役割を担う行革担当部局（総務課）による他部局への統制が不可欠である。 行政改革は重要なテーマであるが、内向きになりやすいため、そもそも行革の目的は何なのか、その結果どういう方向に行くのかということを常に庁内に発信し続けてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、実働組織として、群馬県行政改革実施委員会（委員長：総務部長）を中心に全庁的な取組を実施する。 これまで、年度開始時に前年度取組結果及び当年度取組内容を委員会で協議していたが、これに加えて、第2四半期終了後に当年度取組の進捗状況を確認し、進捗状況が遅い取組については第3四半期以降の取組内容について委員会で協議すること等を通じて、取組の進展を後押しするとともに、行革の取組を庁内に発信する機会を増やす取組を実施したい。
実施計画関係		
3 実施計画・評価表の記載について		
	<ul style="list-style-type: none"> 「要因分析」が自己評価の要であるが、適切に記述されていないことが多い。結果△×や実施結果評価BCDの場合は取組目標をなぜ達成できなかったのかの問題点や阻害要因を明記し、結果○や実施結果評価Aの場合は目標達成要因や促進要因（行政の自助努力によるものか外部要因によるところが大きいかなど）を記載すべき。 「次年度への課題」と「課題を踏まえての対応」が書き分けられていない。 自己評価を行い、問題を発見して、なぜその問題が起こっているかという要因の分析をしていく。県が持っているデータやこれまでの知識や経験などを総動員して問題の要因を把握し、その問題を解決するための課題は何なのか課題を設定し、そしてその具体的なアクション（現行の事業であればそれを変えて修正、現行の事業だけでは不十分な場合は新規追加）をしていく。この一連の流れがまさにマネジメントだと思うが、実施計画書の書き方に関する説明や伝達がまだ少し弱いところがあるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 現大綱の実施計画・評価表は、前大綱の実施計画・評価表から大幅に様式を変更したため、総務課も各取組所属も現大綱の実施計画・評価表の書き方に慣れていない面もあった。 次期大綱の実施計画・評価表は現大綱のものを基本に様式を定めて、自己評価を適切に行えるよう、総務課が各取組所属に周知・徹底したい。
4 取組の評価について		
	<ul style="list-style-type: none"> 実施結果評価について、「結果○で評価A」となっているものもあれば、「結果○で評価B」「結果△で評価B」となっているものもあり、わかりづらい。 	<ul style="list-style-type: none"> 例えば、「結果○」でなぜ「評価A」ではなく「評価B」としたのか、といった理由をしっかりと評価表に明記するよう、総務課が各取組所属に周知・徹底したい。